

読者意見交換会

幅広い分野の皆様から昨年「環境レポート」のご感想、富士フィルムに対するご要望・ご提言をいただきました。

当社では、コミュニケーション活動の一環として読者の皆様との意見交換会を開催いたしました。ただのファンウェイの情報公開ではなく、対話の中から相互理解を深め、今後の事業活動やレポートの内容に反映させる試みです。

「富士フィルム環境レポート2002」を読んだ感想は？

酒井さん: 全体的に、もっと顔が見える工夫があつていいと思った。設計をされている方がどのような苦勞をされているのか生の声があれば、読者も興味を引くのでは。それとやはり年次報告なので、今年はここにこういう工夫がされ、こう進化したということがもっと明確になっていけばよかった。

岸川さん: (環境配慮設計のページに関して) 個々の説明に入る前に、御社の製品が宿命的にもっている環境上の課題、それらを踏まえた開発のベース等の解説があるともっと入りやすい。

中村さん: ふだんから環境報告書に接していないと、なかなか最後まで読みにくい。用語解説も巻末にもってくるより、そのページに脚注やコラムで解説してくれると親切。

神戸さん: 技術紹介も、あまりに専門的でわかる人しかわからない。もっと幅広い層を想定した表現が必要では。

矢後さん: ビジュアル的な要素をもっと重視して、大胆にやっつていいのでは。活字が小さくて、それだけで先にすめないのであるもったいない。

真田さん: 消費者の立場、あるいは素人の目からみたとときにこの報告書はどう読めるんだろうという配慮がこれからはもっと必要ではないか。

どんな環境レポートだったら読みたいですか？

中村さん: 一般の人に身近な製品をもっと大胆に大きく扱えばもっと興味もてる。概要だけ知りたい人、詳しく読みたい人両方に応えるようなメリハリも必要では。



岸川さん: 最近、説明責任という言葉が盛んにいわれますが、説明責任を果たすということじゃなくて、積極的にメッセージを送りだすということが大事。この数字にはこういう意味が込められているというメッセージですね。試行錯誤があつてもいいから、それを読む人が「なるほど、一生懸命やっている」となつたら、逆に雨降って地固まるのではない。

社会的な要素も含めて、今後必要な項目は？

矢後さん: 仕事柄、やはり「水の総使用量」に関心があります。とくにこの足柄工場は化学工場であり、土壌や水質の情報は地域にとって重要な問題。環境報告書への記載も含めて今後ともお願いしたい。

神戸さん: 排出関係の記述は今後とも重視してほしい。足柄工場では、今後天然ガスに変換され、私たちにとても好ましい方向に進んでいます。その辺りの詳細と地域社会との関係を掘り下げてほしい。

大川さん: 私どもの井細田1区では、小田原工場さんが地域の半分を占めている関係で、住民も非常に関心が高い。地域社会との関わりと環境パフォーマンスに関しては詳細な報告を期待します。

岸川さん: 企業内のモラルや法の遵守などがどうなっているか。雇用やストレスの問題。そのへんのルールが明確にわかればと思う。リスク・マネジメントに関していえば、化学物質の管理も大切ですが、今後のメッセージなどがあるとより報告が生きてくる。



今後の富士フィルムに望むことは？

酒井さん: 今日は工場も拝見させていただき、ステークホルダーに対しての常日頃の配慮も感じますし、真摯な姿勢が伝わってきました。富士フィルムさんがこれまで脈々と築いてきた、環境に対する思いや歴史がしみじみと伝わってくるものを期待しています。

大川さん: 共存共栄という関係でいいおつき合いをさせていただいています。環境問題もお金がかかることですので、今後とも企業としてますます繁栄していただきたいですね。

岸川さん: 足柄工場へは2年ぶりに伺いましたが、工場のたまたまいや標示物をみても非常にクリーンになった印象をもち、うれしく思いました。業界のリーディングカンパニーとして、環境への配慮も本業さながらのスピードと感度を感じますし、今後もその体質を磨いていただけたらと思います。

読者意見交換会を終えて

富士フィルムでは、今回初めて「環境レポート」の読者意見交換会を実施させていただきました。内部からは見えにくい数々の問題点をご指摘いただくとともに、示唆に富む様々なご意見をいただきました。従来から読者の方々に理解していただける誌面づくりを第一にと心がけてきましたが、まだまだそれが十分でないことを痛感しています。

とくに専門的な内容を、すべての読者に理解していただくのは誌面の都合上難しいかも知れません。しかし図版やイラストを多用したり、研究開発に携わる人を登場させるなど富士フィルムの「顔が見える」工夫をすることで、少しでもその溝を埋めていくことが必要だと感じました。それは今回の「社会・環境レポート2003」に可能な限り反映させていただきますつもりです。

情報開示を進めることも大事ですが、同時にコミュニケーションの重要性も改めて認識しました。様々なステークホルダーの方々のご意見や疑問にタイムリーにお応えすることが、「信頼」の基本であるとします。今後もこのような機会を積極的に設けてまいります。

本誌にご意見を反映しました。

ご意見	対応策
① 顔が見える工夫	環境配慮設計の各ページに担当当事者が登場。
② 用語解説	巻末の用語解説とともに、該当する代表ページにも記載。
③ 活字の大きさ	2002年版に比べ、本文の文字を大きくしました。
④ 身近な製品を大きな扱いに	環境配慮製品の象徴である「写ルンです」の循環生産工場、進化の軌跡を紹介。

当日ご意見を伺った本誌制作中のページ。さて、どう変わったかは26～27ページをご覧ください。



編集担当
環境・製品安全推進部
出石忠彦



岸川浩一郎さん
エンタティ研究所 主宰
日本環境管理監査人協会 代表



酒井香世子さん
損保ジャパン 社会環境室
損保ジャパン「サステナビリティ」
レポート編集担当



真田整さん
(社団法人)日本印刷産業連合会



矢後正男さん
南足柄市役所・環境水資源政策課



神戸榮一さん
南足柄市役所・環境保全課



大川和重さん
小田原市・井細田1区自治会



中村行完さん
慶應義塾大学経済学部
消費者の立場から

日時：2003年4月23日
場所：富士写真フィルム株式会社
足柄工場会議室
当社出席者：
環境・製品安全推進部 部長 亀岡公高
環境・製品安全推進部 主席 山手一啓
環境・製品安全推進部 出石忠彦